



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2000 6. 25



## アドベンチャークラブ6月活動 1泊キャンプに25名が参加

月例のこども野外活動クラブ(アドベンチャークラブ)の6月活動が、矢巾の町営キャンプ場で行われました。今回は、子供が15名、大学生のボランティアリーダーが10名と総勢25名の賑やかなキャンプとなりました。

心配されていた雨もなんとかもち、16時キャンプ場に到着すると、伊東リーダーの指導のもとテントの設営にとりくみました。10名のリーダーのうち、初めてキャンプを経験するリーダーもベテランの子供たちに教わりながら設営していきます。今回のアドベンチャーは、新人リーダーのトレーニングもかねています。毎年この月のアドベンチャーの活動を通して、多くのリーダーが誕生してきました。今年から社会人になった藤原リーダーも駆けつけくれ、暖かいまなざしで見守っていました。

夕食は、カレーライス。全員で準備しました。火を炊く子、お米をとぐ子、じゃがいもや人参の皮をむく子、それぞれが、それぞれの役割をこなして働きました。



翌日は、天気も回復し、みんなは、野球、縄跳び、カエル採り、おもいおもいに遊びを堪能。子供たちの歓声がキャンプ場いっばいに響きわたります。やはり、子供はやかましいのが一番!! 矢巾キャンプ場はこの時期は、アマガエルがいっぱい。子供たちが捕まえたカエルは、全部で60匹を越えました。アマガエルを退治したから日曜は晴れたのかも知れません。

午後から、キャンプ場の近くのプールで遊んで、16時30分バスセンターで解散。盛りだくさんのキャンプでした。



ほら、カフトムシ捕まえたよ。



魔女の宅急便に挑戦

## 各地のYMCA④(カナダ)

### 青少年の暴力防止に取り組み(ウィニペグYMCA)

カナダのウィニペグYMCAは、他の団体と協力しながら、高校などで発生する暴力の原因を探るとともに、解決方法を探るプロジェクト"Acting Peace"を推進しています。このプロジェクトは、開始当初から述べ250人の若者、ボランティア、専門家、10の高校、21の地域グループの協力で、開発と改良が進められてきました。

プロジェクトの一環として行われた、若い女性や男性の生活と暴力に関する調査からは、若者文化のユニークさ、複雑さ、そしてダイナミックさとともに、無気力でも迷いもなく、自分達自身で暴力をなくすためになにかできるはずだ、という明確なメッセージが読みとれました。そんな若者達について語るとき、オープンで柔軟で、双方向の姿勢が求められています。このような観点から生まれた"Acting Peace"の教育方法、教材は工作、グラフィック、ビデオ、さまざまな種類のエクササイズなど、同世代の若者主導のプログラムとガイドブックで構成されるプログラムを通して、参加者一人一人が、暴力の存在に気づき、他者への思いやりや理解、寛容さ、建設的な生活態度の育成を図っていきます。

### ぽこあぽこ

(イタリア語:だんだん、じよじよに、ぽちぽちの意)

少し前、あるテレビドラマが話題になった。障害のある女性と美容師の男性とのラブストーリーだったが、その青年は、障害のある女性に対して「人」として自然に接していたことに好感がもたれたようである。ドラマの中でこの青年が足で車イスにのっている彼女の向きを変え、自分の方に引き寄せた場面があった。あとで、この場面にはドラマのスタッフからも、このままでして良いのかという意見があったと聞いた。二人の関係ではごく自然な場面だった。むろん、親しくもない関係においてはしてはいけないことである。それは、親しくもない人の肩を押さえて無理やり振り向かせれば怒られる。このこととどう違うのか。「障害者」にはしてはいけないことと、「人」にはしてはいけないこととの間に違いがあるのだろうか。どこか「障害者」を異質なものの、あるいは「弱者」として受け止めているのではないだろうか。良識ある「強者」には、「弱者」である障害者に、してはいけないことが暗黙のうちに存在しているような気がする。



千葉YMCAでは、すべての青少年の活動において障害のある子供たちを受け入れている。子供たちは、障害のあることとそうでないことを並列に「違い」として受け止める。だから、平気で「○○ちゃん、○○できないんだから、やってやるよ」と言える。逆に、それを聞いている良識ある大人のほうが、ドキッと「できないなんて言うものではありません」となる。キャンプや活動に来ている子供たちを見ていると自然に互いの違いを「違い」として受け入れ、互いを認めあっている。この子供たちがそのまま大きくなると、あのドラマはドラマで無くなるのだろう。

千葉YMCA 三橋 和弘